



新たな学びへの挑戦

校長 五十嵐 俊子

本校では、「子供はもともと学ぶ力や新しい価値を生み出す力を持っていると信じて、子供同士の「対話」で高め合う学びを目指しています。先月ご覧いただいた「まちご エンジョイ ラーニング」の発表会は、玉川学園地域をフィールドに、生活科や総合的な学習の時間と、国語、社会、理科、図工等の複数の教科を統合したプロジェクト型学習の成果でした。この発表会に向けて、特に6年生は、取材記録からプレゼン作成、発表練習の振り返りまで、新しく配備されたICT機器を駆使しました。本当に子供の力には驚かされます。

町田市は、グローバル化、AI化が進む未来に向けて、英語とICTを活用した教育を重点におく方針を出しました。2学期からは、市内の半数の学校で、各教室に大型モニターが設置され、PC教室でなくてもどこでもネットワーク通信ができるタブレットが1クラス分(40台)配備されました。導入された新しいタブレットのシステムは、クラウドを活用した情報共有に特徴があり、これまで不可能であったことが容易にできるようになりました。たとえば、同時に複数の人から同じファイルに情報を入力することができるので、入力しながら友達が何を書き込んでいるのかを知ることができます。1つのプレゼンを、グループのメンバーが役割分担して同時に作成することも可能です。まさにこれからの時代に求められる「ICTを活用して協働するための環境」が整備されたのです。全国を見てもこのような環境で学習できる地域は少ないのが実情です。

本校は町田市の研究推進校(東京都のプログラミング教育推進校も兼ねています)として、このような協働的な学びを先駆的に実施できるように、現在、大学や企業からさらに複数クラス分のタブレットを追加してお借りし、活用しています。9月には、海外から教育関係者の視察を受けました。子供たちの学びの様子を褒めてくださいました。また、先月の学習発表会の前日には、石阪市長さんも子供たちの学びを見てくださいました。今後も、市内はもちろん、世界中に子供たちの学びの様子を発信していきます。

最後に、まちご エンジョイ ラーニングのアンケートで、保護者や地域のみなさまから、心温まる感想をいただきましたことにお礼申し上げます。拝見すると、外から見てくださった方の目を通して、本校が改めて何を目指していたのか、学びの本質が何だったのかを再認識できます。ここにご紹介いたします。

○小学生の力を侮るべからずと感じました。どの学年の子供もうれしそうで自信に満ち溢れていました。

○何年生だからできるできないではなくやればできるという可能性を感じました。

○ICT機器を使いこなしたプレゼンで学会に参加したような気分になりました。

○その場での保護者の急な質問にも瞬時に答える対応力に感激しました。

○多くのお客さんに何度も同じプレゼンやクイズを繰り返していたのに、きちんと相手を見て、相手の反応を見ながら合わせて話してくれて感心しました。

○今までの勉強と違いICTを駆使しながら自主的に学んでいくという学習が、これからの教育のスタンダードになっていくのだと感じることができました。

○受け身でなく、得た体験から自分たちで考え合って表現するという形は、今後、重要とされているアクティブ・ラーニングそのものなのだと感じました。

○一人一人がきちんと学び、よく考えて形にしていたので内容が伝わりました。

○丸暗記ではなく自分の言葉で人に聞かせるという貴重な経験です。

○個々の自信が集まって一つの尊い作品となり、それが人を動かす力になったと感じました。

○保護者もただ鑑賞するだけでなく参加型で楽しく学びました。まさに親子でエンジョイラーニング!

○自分たちのまちについて真剣に考え、熱く語る姿には涙が出そうでした。

○町内会でもSDGsの目標11は主要なテーマで、発表を聞いて我々自身が考えさせられました。

○地域に密着した内容でレベルが高く、町内会が取り組んでいる地域活性化に良い影響を与えてくれると思います。

○保護者の意識も高く、皆さんよく質問したり、コメントを出したりして、場を盛り上げていました。

○竹の子学級の子供たちの演奏には心が洗われるようで感動しました。とてもステキでした。

これからも、保護者・地域のみなさまと力を合わせて、まちごの子供たちの未来を見据え、子供たちの可能性を伸ばすために挑戦していきたいと考えています。



石阪市長さんが、前日に、6年生へ、発表のアドバイスをくださいました。